

すっぱい梅ぼしてできるかな～ おばあちゃん先生も来るゾ

赤塚新町小四年一組では、総合的学習として「梅干づくり」を行っています。担任の松田先生のお話では、八号棟前に植わっている梅の木から落ちた梅の実を児童が拾ってくるのを見て、この梅の実を授業に活用しようと考えられたとのこと。早速、この梅の木を管理しているゆり北管理組合の宮島理事長（当時）に提案しました。理事長は、「子供たちの学習に役立つなら、是非お使いください」と、あたたかな回答を寄せられました。

このような経緯から、四年一組の梅干づくりの授業が開始されました。梅干づくりは熟練の要る作業。未だ若い松田先生お一人では、きちんとした梅干が作れるか、と一抹の不安がよぎります。そこで、去る五月一日、梅干先生を募集すべく、梅干に詳しいお母さん、おばあちゃんに集まっていたきました。

梅干名人のお母さん、おばあちゃん方と松田先生とによる何度かの打ち合わせの時間を持ち、梅干の他にも梅ジャムや梅ジュースといったいろいろな食べ物をつくることになりました。

現在、四年一組の児童たちは、熱心に梅の勉強をしています。一学期



梅干しづくりの先生方(ゲストティーチャー)

の終わりには、きつとおいしい梅干やジャムが出来上がっていることと思います。この授業の模様については、松田先生のご協力のもと「会報ゆり北」紙面で紹介していきたいと思ひます。どんなものができるか、お楽しみに。

アイス棒で扉があかない!!

エレベーター内ゴミ捨て禁止

去る五月二十五日(土)午前九時五十分、一ノ号棟に設置されているエレベーター(一ノ機)内に人が閉じ込められるという事件が発生しました。すなわち、このエレベーターが一階に到着した後、扉が開かず、中にいた方が閉じ込められてしまいました。幸い、エレベーターの外にいた方が扉を開け、事無きを得ました。

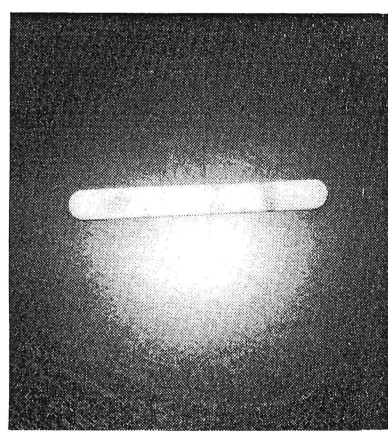
日立エレベーター側の方に原因を調べていただいたところ、一本のアイスキャンデーの棒(写真参照)のせいであることが判明しました。エレベーターの扉は、扉本体が、上框と下框との間にスライド自在に組み込まれています。上框に設けられた溝と扉本体の上部との間にはローラが組み込まれ、下框に設けられた溝と扉本体の下部との間にはシュー

が組み込まれており、これにより扉本体がスライド(開閉)する仕組みになっています。

今回の事件は、一本のアイスキャンデーの棒が下框の溝部に入り込み、扉本体が開方向にスライドするのに伴って扉本体がこの棒に乗り上げ、扉本体上部のローラを上框の溝部に押し付けることに起因して扉本体が開方向には動かなくなっていました。

その原因です。すなわち、下框の溝部とシューとの間にアイスキャンデーの棒がはさまってしまい、扉本体が開方向に動く場合には、ローラと扉本体上部との隙間が狭まって扉の作動を阻止してしまったことが原因でした。

今回はたまたまエレベーターの外に人が居り、迅速な救助を行いました



この棒が原因

が、深夜等にこのような事態となつた場合や疾病等をお持ちの方がこのような事態に遭遇した場合には、危険であり大きな問題となつてしまいます。

今後、このような事件が起こらないよう、エレベーター内ではゴミを捨てないように留意していただく必要があります。もちろん、エレベーター内でゴミを捨てないことは大切なマナーでもあります。悪意がなくとも危険な事態を引き起こす可能性があることを肝に銘じ、お互いが安心して暮らしていけるようマナーを守っていきましょう。

いざいざおちんちん屋楽しい調理

去る五月二十五日にJ A O C L U B 第四回料理講座が開催されました。講師は前年度に引き続きフランス料理シェフの畝畑光彦さんです。

今回のテーマは子供から大人まで幅広く人気のあるハンバーグ。ほんのひと工夫するだけで見違えるように美味しくなるプロのコツを伝授していただくというわけです。また簡単にできてメインディッシュが引き立つ付け合わせを三品(ニンジン、ムース、ポテトのミニコロッケ、ブ



ハンバーグはこうして...フンフン

ロッコリーのバターソテー)も同時に教わりました。

ただし、これは少々欲張りすぎたようです。一家族にコンロが一台しかないこともあり、予定時間をはるかに越えた四時間半という長丁場となつてしまいました。しかし、参加者のほとんどが料理好きということもあってか、蒸し暑い中ひたすら料理に取り組み、その熱意には畝畑講師も感心しきりでした。

当初の料理講座のコンセプトは「美味しいお菓子をつくって尊敬されるお父さんを目指そう」でしたが、回を重ねるごとにお母さんの参加者が増え、また今回は「イキイキ寺子屋教室」との共催で半数が児童だったため、とても賑やかな料理講座となりました。

これから料理を通して親子が楽しい時間を過ごすことを目指していきたいと思ひます。ちなみに次回「秋にふさわしいデザート」の予定です。どうぞお楽しみに!

今年も元気にがんばろう 第二十回ゆりの木会総会

去る五月二十六日(日)、午後二時より、ゆりの木会の十四年度定期総会が開かれました。ゆり北自治会も来賓として招待され、塩原さん、多田さん、西沢さん、石橋さん、マダーニさん、上野さんが参加しました。

会は、塩原ゆりの木会副会長の司会により滞りなく進みました。また、総会に引き続いて行われた懇親会では、誕生日のプレゼント贈呈や感謝状の贈呈等、盛りだくさんの企画があり、楽しいひとときを過ごしました。ゆりの木会の皆様方のご健康と、ゆりの木会の今後ますますの発展とを心からお祈りいたします。



元気に活動を期待しています

連載 第2回 トモちゃん 空襲だよ

作・中村友久(十三号棟)

まだ立春がすぎたばかりで、桜の咲く春が早く来てほしいと思ひていましたが、住宅の焼けた炎は空を真っ赤に染め、大気を暖め、もう春暖の季節が来たのかと思はせるほどでした。「みんな川南公園に逃げろ」と父が叫びました。その言葉にうながされ、壕内のみんなは逃げ走る群衆の中に合流しました。私も川南公園の手前の川南小学校まで走りしました。そして学校の通用門から体育館の側壁と外壁のあいだの公園に出る細い道に入りました。

体育館は窓からも火を吹き出しています。私は体育館の中をのぞき見ました。火はロクボクを這い上がり、天上までいき宙返りをし、床に落ち、さらに窓より吹き出していました。そして火は私の顔にも向かってきました。炎を浴びたとたん眠くなったような気持ちに襲われました。そのとき初めてこれが死ぬことなのかと感じました。案外死ぬことって簡単なんだと思ひてしまいました。

